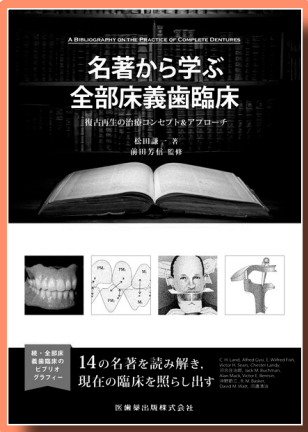
# Book Review

## 名著から学ぶ全部床義歯臨床
## 復古再生の治療コンセプト&アプローチ




松田謙一　著／前田芳信　監修

A4 判，148 頁
2 色
定価 7,920 円
医歯薬出版刊

Reviewer
阿部二郎　Jiro Abe
（東京都・阿部歯科医院）

思い起こせば，およそ 40 年前，歯科大学を卒業直後，私は故・矢崎秀昭先生の診療所に勤務しました．秀昭先生の父は，矢崎正方（まさかた）先生で，東京歯科大学の学長を務めた補綴科の教授です．そして，過去に数多くの本を出版していて，その一番弟子が河邉清治先生だったという話を聞いたことがあります．

もちろん，医院長室の本棚には，秀昭先生や正方先生の本のみならず，Gysi や Fish，そして Boucher 先生などの英語の著書もあり，河合庄治郎先生，沖野節三先生，河邉清治先生の本が並んでいて，それらの本を義歯の知識を増やそうと食い入るように読んだ記憶が蘇ります．

御子息の秀昭先生からこんな話を聞いたことがあります．「父・正方は，『私の本を読んでも他の歯医者が私が思っている通りには義歯を作れない』と言ったことがある」．そんな本心を聞いて，私は，今後は材料学や補綴学の進歩が加わるので，私の総義歯臨床も今回の執筆者が書いた内容とは同じにはならないかもしれないと考えていました．

今回の松田先生がまとめた『名著から学ぶ全部床義歯臨床』には，知らなかった先生方の本も多数あり，読み応えのある内容になっていました．

執筆者の先生方が自分の発想や考えをもって，独自の総義歯解説書を時代に合わせて書いている様子がうかがえます．特に，古い論文の多くは幾何学的に義歯の性能や機能を中心に執筆されています．Gysi の本では，咬合器開発の中で蝶番軸（現代の咬合器の顆頭回転軸）を探していた歴史が読み取れます．結局，一本の回転軸は見つけることができず，現在の咬合器の回転軸は仮想軸であることがわかります．

また，印象材も半水石膏印象，コンパウンド，酸化亜鉛ユージノールペースト，ラバー印象材とトレー材料の変化の時代に合わせて，印象材の質や精度の変化がうかがえます．人工歯も同様に，天然歯の解剖学的形態とはほど遠い形の人工歯なども存在し，使い方がどんどん複雑になります．患者層も現在の高齢無歯顎者とは異なり，40〜50 代の患者が多く存在していた時代，つまり顎関節や顎堤にあまり大きな問題を抱えていない患者が多かったことが読み取れます．

あの当時，どうしてこんなに多くの個人トレーのデザインがあるのだろう？　どうしてこんなに豊富な種類の印象方法があるのだろう？　どうして執筆者によって，人工歯の咬合面の形態が，こんなに違うのだろう？　なぜ，義歯の床面積や研磨面形態は，人それぞれで推奨するものが違うのだろう？　そして最後に，私は一体どの方法を採用したら自分の患者を満足させられるだろう？　と疑問をもちながら本を読んでいました．

臨床で困った際に執筆者らの技術を応用することによって，患者や自分にとって都合の良い義歯が完成できるという結論に達し，治療に励みました．

2000 年に突入すると徐々に時代が変わり，現在では患者満足度を中心とした義歯の開発が進んでいます．また，最近ではデジタル義歯が徐々に世界の注目になりつつあります．印象や咬合採得の技術は過去と大きく変わらないのですが，技工操作の問題点，マウンティングによる石膏膨張やレジン重合収縮を極力抑え込むデジタル義歯中心の時代が近づいています．印象や噛み合わせを正確に再現できることによって，患者の義歯の使い心地が向上すると考えられています．

この本を読み，義歯の歴史を知ることで，今後の臨床で変えていくべきこと，守るべきことが明らかになったと確信しています．どうぞ，ご一読ください．